

1千万人の半分が逃避した都市 Wuhan、チャーター機で帰国、横浜港に留まる3千人乗りクルーズ船、マスク・消毒液が品切れ。世界各国に広がる Coronavirus
1月22日のゼミは、マルクス『資本論』第3巻第31章「貨幣資本と現実資本Ⅱ」を小野さんの報告で行いました。貸付可能な貨幣資本の蓄積が資本の現実的蓄積に一致するののか、と問題を再設定した。貨幣の貸付資本への転化と資本・収入の貸付資本に転化される貨幣への転化で、資本の現実的蓄積に含むのは後者である。貸付資本の過剰が生じるのは、恐慌の後の循環開始期と好転が始まる時期である。現実的蓄積と関わらない貸付資本の増大は銀行制度の拡張・集中で起こる。貸付資本の総量は流通手段の量とは全く異なり、一部は変動する諸銀行の準備金をなす。それでも貸付可能な貨幣資本の総量は、同じ貨幣片での購買や預金への復帰で、流通している貨幣の総量と相違する。正常な貨幣資本の蓄積は商業信用の流れが停滞ない場合であるが、それ以外に新金鉱の発見による異常な金の流入がある。信用制度発展と大銀行の手中における貨幣貸付業務の集中とが、貸付可能な貨幣資本の蓄積を、現実的蓄積とは異なる形態で促進する。貸付資本の形成は、利潤のうち収入で支出されずに蓄積予定部分と、収入で支出される部分が徐々に消費され、その間は預金として銀行業者での貸付資本を形成する部分である。討論では、全ての恐慌は資本主義的生産の衝動に対する大量の窮乏と消費制限であるが、まったく同じように現れる恐慌は二つとない。オイルショック・バブル崩壊・08恐慌。30章と違い31章のメインテーマは貸付資本へ転化する貨幣の由来と諸条件。手形裏書で信用創造するが、国債は別。生産資本のもうけが貸付資本となる場合は正常な貨幣資本の蓄積。むしろ貸付可能資本としては架空資本が重要。貨幣資本の英語 **maneyed capital** はどうか。内部留保は設備投資と利子生み資本へ分かれる。貨幣のもう一つの使用価値である資本の機能・搾取が大切。25章「信用と架空資本」が全体を統括している。出席は、小野さん、高島さん、川口さん、服部さんと高田の5名でした。

* 2月12日ゼミでは、萩原本の第4章後半、3節・4節を行います。

* 基礎研春季研究交流集会在3月21・22日に福島市「コラッセふくしま」で行われます。翌23日は被災地視察エクスカージョンもあります。22日の4学会共催シンポはメール受付が必要です。

* 今後の会場は、いつもの淀屋橋道修町・アイクルの部屋です。

***** ゼミ日程 *****

- 2月12日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
萩原伸次郎『世界経済危機と資本論』第4章 新自由主義 (後半) 報告松村さん
- 2月26日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻32章 貨幣資本と現実資本Ⅲ 報告・高田
- 3月11日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
萩原伸次郎『世界経済危機と資本論』第5章 新自由主義論理 報告者未定
- 3月25日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻33章 信用制度下の流通手段 報告者未定
- その後 4/8, 4/22, 5/13, 6/10, 6/24 (アイクルの部屋)